

<p>令和6年度重点目標 令和6年度 重点目標】 1. 地域に学校の存在を知ってもらう ①SNSの活用と閲覧数のアップを図る ②学生と広報部を結成して1週間に1回以上SNSWを更新する ③HPのリニューアル：卒業時の評価から学校のよいところを伝える：離職率の低さ、卒業率、卒業後の連携・支援 ④オープンキャンパスの参加者の増加を図る 2. 新カリキュラムの学生が全員国家試験に合格する ①実習時間に国家試験対策を盛り込む ②1月末の全国模試の受験者個人評価が全員D評価以上である ③国家試験に向けた個別のメンタル支援を実施する 3. 新カリキュラム各論実習を成功させる ①臨地実習指導者の評価、学生評価、教員の評価、欠席率、成績で総合的に評価する ②学生の実習達成度があがる ③6Pの卒業時の自己評価を実施する ④3年卒業時に基礎看護技術達成度をすべて網羅できる。</p>	<p>数値目標 1. 受験者数が80名以上になる 2. SNSのリーチ数が毎月1000以上である 3. 第114回看護師国家試験に全員合格する 4. 大阪府下80%以上、かつ3市3町就職率60%以上を維持する</p>
--	--

	令和6年度 6月までの活動内容と評価	改善案
基準1： 教育理念	HPのリニューアルを図り、明るく見やすいものに改善された。デプロマポリシー（6P）を実習目標に取り入れることで学生への周知を図ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、SNSの投稿の更新を継続する ・教員間の6Pの指導方法の明確化と共有。 ・学生へのデプロマポリシー（6P）を指導に活用し、周知の徹底を図る
基準2： 学校運営	取り組みは順調に行っていると評価。新人教員の専任教員資格取得に向けた支援の継続が必要。今後の大学と専門学校との競合への対応として、教員研修の充実が必要。教員のガラケーからスマホへの移行について具体的に計画する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の充実：NEOの活用、教員研修計画 ・教員用携帯電話のスマホへの移行計画 ・学校データのクラウド化の実現
基準3： 教育活動	教職員は主体的に活動しており、チェンジプログラムの効果と考える。6月の実習指導者との合同学習会の評価が高く、継続してほしいとの意見がある。新カリキュラムでは、実習の欠席者が減少し臨地で看護技術の実践につながっている。すべての経験項目を網羅できたか、達成状況を確認する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門実習の実習評価を行う。 ・看護技術項目の経験項目は順調に体験していている。このまま継続し、経験項目の達成状況を把握していく。
基準4 学修成果	今年度はコンセプトカリキュラムで学習した学生が卒業した。講師や実習指導者からもコンセプト学習の有用性を感じると意見をもらっている。国家試験対策として、各専門実習に筆記テストを組み入れ評価に反映したが、実施後のフォローに課題が残った。全国模試の学校順位は全国の中間の位置づけである。1月末の模試では全ての学生が合格圏内の判定であった。しかし、国家試験の自己採点では2名は合格圏内にいたっていない。普段から自己の考えを述べられない、不安を感じやすい特徴がある学生であり、実習時から自信につながるような関わりが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の臨床判断演習の科目に模試を導入し、成績評価に反映させる。 ・実習での口頭試問を強化する。

基準5； 学生支援	事務長に協力を得た就職支援はりんくう総合医療センターの就職試験の合格者14名とかなり効果があった。しかし、2024年度新卒者の離職者が7名と例年よりも多かった。令和6年度卒業見込み者の3市3町の就職率は70%、大阪府内就職率80%は維持できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職100%になるよう支援の継続 ・相談支援については、次年度も事務長と教務主任の協働で行っていく。 ・3市3町で働く卒業生の動向について把握していく
基準6： 教育環境	不審者の侵入に対しインターホンを設置が決定した。学校ハラスメントマニュアルの作成を行い、報告先の掲示を行った。教職員のハラスメントマニュアルと災害時のマニュアル作成ができていないという課題は残っている	<ul style="list-style-type: none"> ・医師会のハラスメントマニュアルとの連携 ・災害時マニュアルの作成
基準7： 学生の募集と受け入れ	令和6年度はオープンキャンパスの回数を増やし、昨年よりも参加人数は増加している。数値目標120名に対し、参加者165名である。入試日を10月に前倒しにしたが、町のだんじり祭りと重なった点が課題。大阪府全体の進学相談会は数名の参加者しかないという厳しい状況であったので、協議会でも検討し、看護学校のイメージを明るくするイベントへの変更を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSクラブによる学生協力によりインスタグラム投稿数が増加しリーチ数は目標を達成している。 ・令和6年度の計画通りに実行できているため、オープンキャンパス参加者は目標達成できた。 ・入試では、倍率を維持しながら、追加募集をせずに令和7年度入学生の定数を確保できている。
基準8： 財務	収支表をもとに検討した。収入減少の理由としては、受験者の減少、臨時の補助金を申請していないことがあり、支出増加は人員補充が原因である。今年の予算書は去年の支出をもとに捻出しているので今年の取り組みで評価したい。臨時補助金の申請については経理事務の負担を軽減する対策が課題であった。泉佐野市の協力を得て、令和6年11月よりふるさと納税に看護学生応援プロジェクトが開始された。	令和6年度の計画通り実施。令和6年11月より泉佐野市ふるさと納税に看護学生応援プロジェクトが開始され、令和7年度は学生支援のための予算が充実した。
基準9： 法令案の遵守	令和5年度は第1回学校関係者評価を開催することができた。	学校評価を積極的に行えている。
基準10・11：社会貢献・地域貢献	地域在宅看護論のフィールドワークやボランティアをはじめとする地域との交流、地域貢献、協議会での社会貢献、学会発表、執筆による教育活動に関する貢献は十分に行っていると評価する。学校祭に関しても地域のお店に出店してもらって好評であった。8月に日本看護学校協議会学会、日本看護学教育学会での発表を行った。ミッション大学の研修受け入れが好評で、令和7年3月に第2回目が実施される。りんくう総合医療センターの国際外来からも南谷医師に講義の承諾を得ることができた。社会貢献・地域貢献、国際貢献については十分に行っていると評価した。	令和6年度の計画通り実施。

令和6年度 自己点検比較

